

漢方産業化推進研究会 台湾視察報告



2020年1月15日

株式会社三菱総合研究所 主席研究員
慶応義塾大学SFC研究所 上席所員（未病・漢方プロジェクト）
（一般社団法人 漢方産業化推進研究会 事務局）

福田 健

台湾視察報告（概要）

■参加者

一般社団法人漢方産業化推進研究会（会員企業様、渡辺代表理事、事務局）

■日程

2019年11月4日～5日（現地 1.5日間）

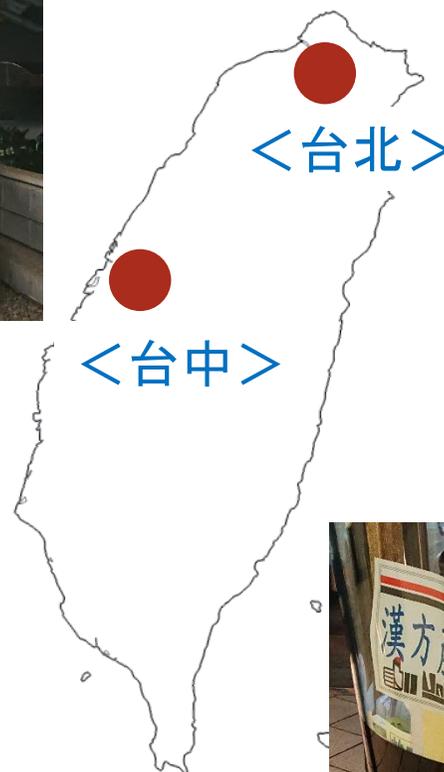
■視察・インタビュー対象

1) 台北

- ①順天堂製薬様（本社）
- ②デイリー社様
- ③迪化街【生薬街】
- ④士林夜市【十全大補湯など】
- ⑤お粥試食【朝食】

2) 台中

- ①順天堂製薬様（工場）
- ②中国医薬大学様（薬剤部）



1. 順天堂製薬様（工場・本社）視察・インタビュー

【工場・施設外観】



【順天堂製薬 製品一覧】



【順天堂製薬 幹部皆様との意見交換】

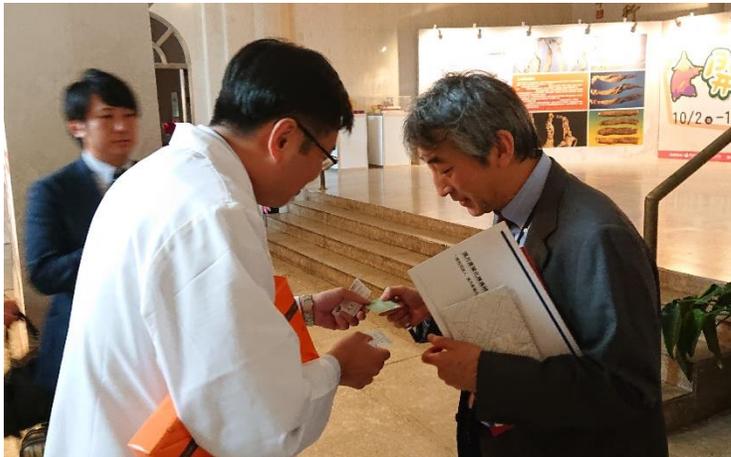


2. 中国医薬大学 視察・インタビュー

中国医薬大学：台湾で初めて、漢方薬と西洋医薬、健康科学の人材育成に同時に取り組む（2018年で創立60周年）
医療分野で台湾トップ



【中国医薬大学 副院長 顔先生との面談】



【漢方に関する歴史的資料の見学】

薬研



方位神



伝統的装飾の生薬棚

なぜ、台湾を視察候補としたか？

○順天堂製薬様(台湾)のご協力・ご支援

○日本に近い台湾の「異なる部分」

- 「漢方」:日常生活への浸透
 - 食薬区分の違い
 - 女性の社会参加
 - 外食率の高まり
 - 物価動向
- など

食薬区分について

○食薬区分：医薬品(※1)と食品(※2)との法的規制の境界線

※1：薬機法(医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(旧薬事法))

※2：食品衛生法

○医薬品～食品の混乱による弊害を回避

- ・副作用など健康上の被害
- ・不良品、偽造品の製造販売、不当な価格設定
- ・医薬品・食品への不信感増大

○食薬区分を過去事例や実績等から設定

- ⇒ 科学的かつ明確な根拠とは言い切れない
- ・医薬品の該当性：使用目的、成分・効能・形状等から判断
- ・野菜、果物、調理品等、外観、形状等から食品と認識される物は除外
 - ⇒ 食用事例はあるが「専医リスト」に登録あり／使用実態に対応しきれていない
- ・一般に食品として飲食に供されている物は除外
 - ⇒ 「一般」の基準・範囲が不明瞭



○日本と海外で、食薬区分の範囲に差異

- ・中国には食品であり医薬品でもあるものが80項目以上
- ・日本では医薬品として扱うが、中国では食品としても扱うものあり
- ・家庭・飲食店で幅広く食われて、小売店や通販サイトでも購入可
 - ⇒ 食薬区分が参入障壁となり、新規市場開拓や治療機会の損失

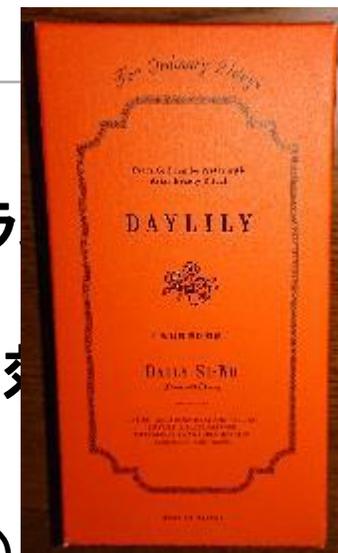
四物湯（しもつとう）の事例

○四物湯（しもつとう）の効用

- ・血液循環をよくして体を温め、皮膚を潤し、ホルモンのバランスを整える作用
- ・更年期障害、貧血、冷え症、生理不順・生理痛等、女性に効果的

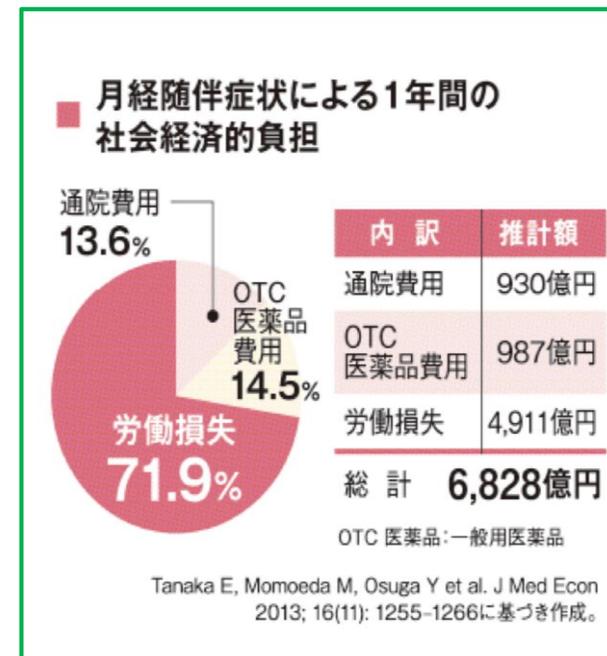
○日本と台湾での食薬区分の違い

- ・四物湯は台湾では普及（日本人女性が台湾で起業・販売）
- ・台湾では月経困難症が少ない
- ・**食薬区分の違いから日本での販売は不可**



○日本での経済的損失は6,826億円（試算）

- ・女性活躍の推進と健康支援の両立は重要課題
- ・四物湯の国内販売不可により、女性特有の月経随伴症状による「休業・業務効率低下」、「医療費増大」等の**社会的経済負担は6,828億／年と試算**



3. 迪化街【生薬街】 視察・インタビュー

【迪化街入口～生薬・漢方の専門店の集積】

【食材・香辛料の店頭販売】



【『黄長生』 視察・処方】

【日本では見かけない多様な生薬（種類・質）】



4. 士林夜市【十全大補湯】 視察・試食（その1）

【士林夜市 入口～メイン通り】



【観光しつつ士林夜市の奥へ】



【藥膳鍋『十全大補湯』のお店へ】



4. 士林夜市【十全大補湯】 視察・試食（その2）

【お店入口は複数の鍋と生薬の香り】



【薬膳鍋の値段は100元前後】



【若者や家族連れの来店】

【多様な生薬・食材】



滋養強壮・食欲不振・冷え性等の効能



(参考 1) 女性の社会進出度 (日本 : 48.1 / 台湾 : 64.7)

MasterCard Worldwide「女性の社会進出度」指数														
市場	ニュージーランド	オーストラリア	フィリピン	シンガポール	台湾	ベトナム	香港	中国	タイ	インドネシア	マレーシア	韓国	日本	インド
総合スコア	77.8	76.0	70.5	67.5	64.7	64.4	63.3	61.5	61.3	56.5	54.3	49.1	48.1	38.0
雇用	91.2	90.5	76.7	86.1	89.5	79.8	86.8	83.8	85.6	74.4	75.7	83.1	83.1	43.6
労働力参加	83.2	81.9	63.0	74.1	79.7	90.1	75.3	84.1	80.1	61.1	57.2	69	69.1	35.8
正規雇用機会	104.9	105.1	93.4	113.0	107.0	70.7	109.6	83.5	91.5	90.6	108.9	101.7	101.0	53.0
教育	100.0	97.5	100.0	97.8	98.9	100.0	100.0	100.0	100.0	91.7	100.0	84.5	94.5	79.3
中等教育、	104.6	95.1	107.5	99.5	97.8	104.4	101.2	102.6	108.9	97.7	107.9	100.6	100.1	92.0
高等教育	140.5	133.3	128.4	96.1	107.1	101.4	108.5	112.9	128.0	86.1	129.9	71.4	89.3	68.3
リーダーシップ	51.6	49.7	45.6	36.5	30.7	33.5	29.3	27.8	26.9	26.4	21.1	17.5	14.2	5.9
事業所有	42.0	50.9	33.3	32.7	25.2	40.9	24.9	40.9	34.8	29.8	18.1	27.5	21.2	13.2
企業管理職	68.6	58.4	114.3	46.4	26.3	28.4	44.3	19.4	30.2	27.2	34.3	10.5	10.5	25.0
政府機関管理職	47.6	41.3	28.5	32.0	43.4	32.3	22.7	27.1	18.6	22.8	15.3	18.6	12.8	12.2

(出所) 「女性の社会進出度調査」MasterCard社2013

(参考2) 外食動向・物価相場

■「日本食品消費動向調査 台湾」2018年3月日本貿易振興機構(「1-2-2.消費者の食習慣」の「(1)高まる外食率」より抜粋)

[前略]外食傾向は特に若年層において顕著に見られ、台湾の食品事業者も「感覚的に95%程度の人

は外食をし、家で料理を作る人は少ない」という。外食が増えている要因には、女性の社会進出が進んでおり、共働きが一般的になっていることが挙げられる。

[中略]

外国人労働者(外労)の雇用を背景に、2000年代前半以降、一般的な家庭でも家政婦(メイド)が雇い入れられ始めたため、日常的に家庭料理を作る習慣があまりない。その習慣が次世代にも受け継がれることで外食文化が進展している。

設備の面ではキッチンがない家も多く、特に1人暮らし用の賃貸住宅ではキッチン設備やガスコンロなどがないことが一般的である。また、外食費がスーパーマーケットなどで食材を調達する自炊コストより安いこと、飲食店が住宅街、オフィス街を問わず点在していることも、外食文化を後押ししていると言える。

■主な物価相場(1台湾ドル=3.7円)

- ・タピオカミルクティー : 30~50元
- ・地下鉄(最短区間) : 20元
- ・タクシー(初乗) : 70元
- ・缶ビール : 30元
- ・水煎包 : 15元

(参考3) 新たな疾病分類の動き (国際疾病分類 ICD11/WHO/2018.6)

■ICD-10 ⇒ ICD-11 (主な変更点)

第1章 感染症及び寄生虫症

第2章 新生物

第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害

第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患

第4章 免疫機構の疾患

第5章 精神及び行動の障害

○病的賭博+ゲーム障害

第6章 神経系の疾患

第7章 睡眠・覚醒障害

第7章 眼及び付属器の疾患

第8章 耳及び乳様突起の疾患

第9章 循環器系の疾患

第10章 呼吸器系の疾患

第11章 消化器系の疾患

第12章 皮膚及び皮下組織の疾患

第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患

第14章 腎尿路生殖器系の疾患

第15章 妊娠、分娩及び産じょく

第16章 周産期に発生した病態

第17章
性保健健康関連の病態

第17章 先天奇形、変形及び染色体異常

第18章 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響

第20章 傷病及び死亡の外因

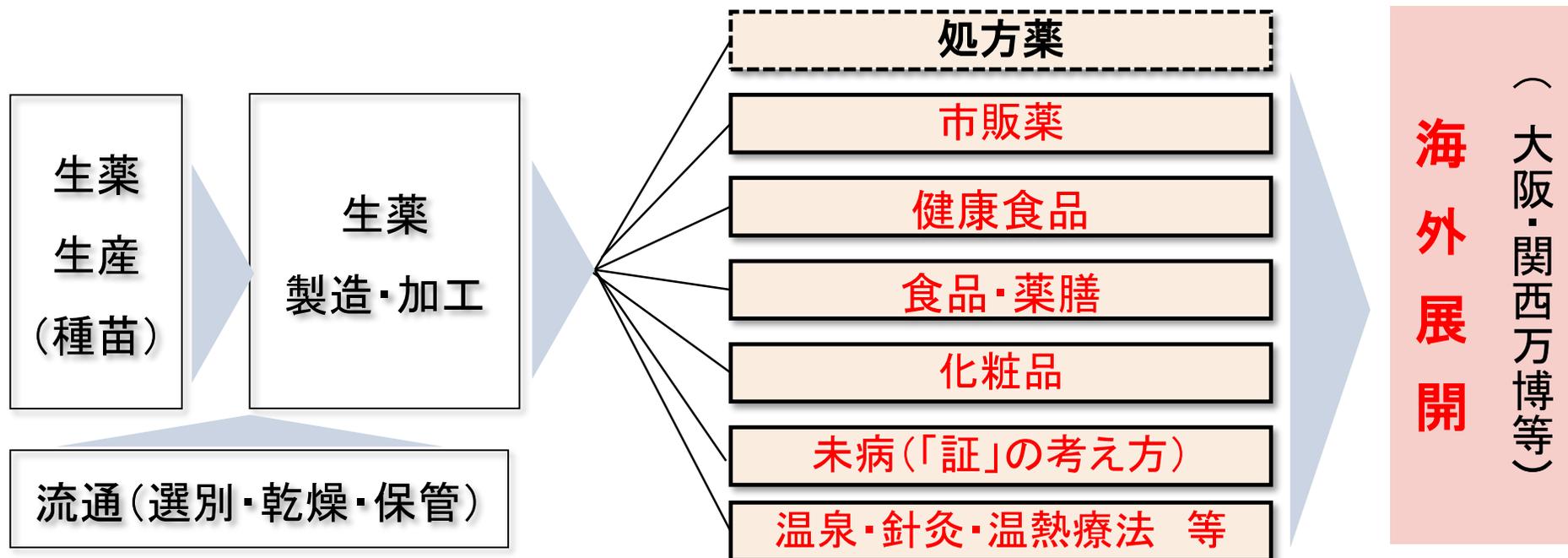
第21章 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用

第22章 特殊目的用コード

第26章
伝統医学の病態・モジュール

漢方産業化における出口戦略の重視

■ 伝統医療・知見の活用 ⇒ 医療＋食・予防・生活への展開(医食同源)



【解決すべき課題】

規制緩和・ルールづくり(食薬区分等)

エビデンスづくり

生薬の国産化

人材育成

漢方産業化・海外展開にご関心ある皆様、事務局までお問合せ下さい！